MARKETING 変わるマーケティング

トップ追撃へブランド戦略

弘機商会

弘機商会（東京都大田区、高原隆一社長、03・3732・5461）は、リベットの頭をつぶす「かしめ機」の専用メーカー。顧客の購買担当者が世代交代に差し掛かっているタイミングを見計らい、機種刷新やデザインの一新など矢継ぎ早のマーケティング戦略を打ち出している。

3社の寡占市場

かしめ機は、金属製の締め付け用部品であるリベットの頭を丸くつぶして、二つの部品を結合させる機能を持つ。納入先は衣類や家庭用品のほか、自動車部品、電機・電子部品、半導体など幅が広い。

市場は横ばいで推移しているが、自動車部品向けに納入する機械は、重要保安部品のかしめ作業にも使われるため、高い品質を生み出すノウハウが求められる。「簡単なかしめ作業はない。お客様自身が（ノウハウを身につけるなど）成長しないと継続できない」（高原社長）という。このため、日本のメーカーは、海外工場でも日本製のかしめ機を導入する傾向にある。

日本のかしめ機メーカーは3社あり、そのうち専業は弘機商会を含めて2社。寡占市場だが、現状では競合社のシェアが圧倒的だ。「〝かしめ機〟というと、競合の社名が想い浮かばれてしまう」（同）状況を何とか覆したい一心で、戦略を練り直すこととなった。

ポンチは一つひとつ全ての設計が異なる

かしめ機 50年ぶり改良

2つの施策推進

取り組んだ施策は大きく二つある。一つは50年ぶりのモデルチェンジ。旧機種は本体が鋳物の一体成型だったが、新機種はかしめ機構をユニットとして独立させ、後からシステムアップできるようにした。また、かしめの加圧力を5キロニュートン、10キロニュートン、20キロニュートンの三つにして、顧客企業が選びやすいように再編成した。さらに、ネットワーク性能を向上。旧機種のコントローラーはオンとオフの切り替え程度しかできなかったのを、新機種ではマイコンを内蔵して入出力のつながりを考慮し、作業者がパソコン上で稼働状況を確認できるようにした。

もう一つはブランド戦略の立案。かしめ機は、英語でリベッティングマシンと表記するが、それだと競合社がイメージされてしまう。デザイナーの知恵を得ながら、自社の商品名に「スピンリベッター」と命名。名刺やパンフレットにも同名を表記するなど、ブランディングによる差別化を訴求することにした。

50年ぶりにフルモデルチェンジした３タイプのかしめ機

デザインも一新

その延長線としてデザインも一新した。「購入の決定権を持ち始めた若い人に訴求する」（同）のを狙い、旧機種で採用していた全体の深緑色での塗装を改めた。新型機ではかしめ機構のみを鮮やかな黄緑色に塗装するなど、イメージチェンジを図っている。

弘機商会は2017年に創業80周年を迎えた。新戦略を展開する上で、今までの技術ノウハウの蓄積が大きい。

かしめ機の構造は50年前に確立されているものの、加圧部分に付ける「ポンチ」は一つひとつ全ての設計が異なるため、今でも技能者が汎用旋盤を用いて手作業で製造する。かしめ機とポンチ、それを受ける「アンビル（金床）」の協働が重要だ。また「技術的に困っているお客さまが来社した際に、10―15分で段取りして、その場でサンプルを製造できる」（同）体制を取っている。

技術ノウハウと機動力をベースに、新戦略を展開して競合社に対抗していく。

（南東京支局長・安久井建市）

新分野に売って出る

ロータリーエンコーダー

精度高めた新製品投入へ

緑測器東京営業所長
岡村 和司氏

緑測器（東京都羽村市、佐藤和久社長、042・554・5900）は、回転角度をデジタル出力する「ロータリーエンコーダー」の市場に本格参入した。緑測器の岡村和司東京営業所長に自社ブランド製品の開発や今後の販売戦略を聞いた。（西東京・松崎裕）

―ロータリーエンコーダーの開発の狙いと経緯は。

「さまざまな機器がインターネットにつながり、IoT（モノのインターネット）化する中、センサーのデジタル化が進み、産業界ではセンサーに対する要求が多様化している。これに伴い、2011年にロータリーエンコーダーの開発を開始。13年には英ゼットレックス（ケンブリッジ市）と総代理店契約を結び、国内で超精密電磁誘導式エンコーダーの販売を展開し、マーケティングのノウハウを蓄積してきた」

―開発の強みは。

「1952年創立の当社は、アナログの精密ポテンショメータを主体とする位置センサーの開発、製造、販売を手がけ、パイオニア的な役割を果たしてきた自負がある。各業界のニーズに合わせた回転角度センサーや直線変位センサー、傾斜センサーを取り扱い、高度な開発技術を駆使したカスタム品の売上比率も高い。産業機器や建設車両、土木計測、宇宙航空関連でも実績を重ねてきた背景がある」

―販売計画は。

「自社開発した回転型磁気式『アブソリュートエンコーダー』を17年4月に発売した。今後も精度を高めた新製品を投入し、ロータリーエンコーダーなどを含めた新製品群の売上高を、22年3月末までに全体の30%に引き上げていく計画だ」

自社開発した回転型磁気式「アブソリュートエンコーダー」

CS新時代

インフォコム

認知症のケアサポート

高齢化が進み、2025年には団塊の世代が75歳以上になる。厚生労働省によると、国内における認知症高齢者の数は、12年で約462万人。25年には約700万人まで急増し、65歳以上の高齢者のおよそ5人に1人に達する見込みという。

インフォコムは、認知症前段階の軽度認知障害（MCI）の高齢者などに対して自立を促しつつ、そうした高齢者を抱える家族を支援するシステムの開発に取り組んでいる。

同社によると、認知症の初期症状として短期記憶の障害がある。例えばゴミ出しの作業など、生活の中での動作が途中で中断したことを忘れてしまい、次の行動に移った時にトラブルが生じることがあるという。

さらに、動作を実行する能力があったとしても、周囲からの声かけや見守りがないと、困難に陥ってしまうことも見られる。

そうした高齢者に対し「少しのサポートがあれば、認知症の高齢者が独り暮らしであっても、これまで通りの生活ができるのではないか」と同社オープンイノベーションセンターIoT事業推進グループの平塚達也課長は推測する。

在宅介護の高齢者やその家族が抱える問題として、服薬や火の始末、徘徊（はいかい）、不眠、熱中症などがあると想定。システムは、こうした課題に対応するものだ。

まず、タブレット端末を認知症高齢者の自宅に設置する。薬の服用など、予定の時間になると、音声による声がけ通知が可能だ。声がけには、「家族の声を入れることにも対応」（平塚課長）した。

テレビ電話は簡単な操作で遠隔地の家族との会話が可能

見守り機能として温度センサーや湿度センサー、照度センサー、扉の開閉センサーなどを取り付けておき、各センサーからの情報はクラウドに送られる。家族はタブレット端末やスマートフォンを操作し、情報をリアルタイムで確認できる。

タブレットと近距離無線通信規格「ブルートゥース」でつながる専用ボタンを押すだけで、家族などとテレビ電話も行えるようにする。システムは18年春のサービス開始を目指している。家族に安心を提供しつつ、認知症高齢者にとっても、これまでの生活の維持につながることが期待される。（浅海宏規）

「モノづくり」連載企画は曜日替わりです　次回（月曜日）は『NEXT STAGE』……「コア・テクノロジー」「次世代ビジネス」

最新ニュース2017 ～新製品・新技術・新サービスガイド～

企画・構成（株）経済情報センター PR
情報公開 フリーダイヤル：0120-22-0055
KJCBiz 検索

溶接の常識を変えるVortexファイバーレーザー溶接機

ウェルケンが開発した「V・HF2000」は、独自のVortex Technologyと優れたビーム品質のシングルモードレーザーのハイブリッド化により、良好な溶接結果を得られ、応用範囲を格段に広げることができる革新的な溶接機である。

レーザービームに旋回を与えるVortexシステム（特許取得済）により、照射エリアを拡大し、継手ギャップの許容度が広がり、溶加棒による容易な肉盛り溶接が可能となった。また、広範囲のクリーニング効果により、溶接ビートは綺麗かつ適度な幅が得られ、特に角溶接において、より広く、丸みを帯びた美しいR形を実現。アルミ材やメッキ鋼板でも良好な溶接結果を得られる。

トーチは新開発の小型・軽量のT字型トーチにより作業性・操作性が向上。作業に応じて、三種類のレーザーの出射モードが選択でき、溶け込み形状が変えられる。

出力がパワーアップし、さらなる溶接能力を実現

同社は新たに1KWのシングルモードレーザー発振器を搭載した「V・HF3000」も開発。出力がパワーアップしたことで、材料や板厚の新たに適応性を大幅に拡大している。

株式会社 WEL-KEN
http://www.wel-ken.co.jp

半導体業界の環境対策、省エネ改善、作業・工程効率化に強い

創業50周年

半世紀にわたり半導体業界におけるカーボン・セラミックの加工、新型ヒータ開発で実績を積み重ねてきた三幸は、シリコン単結晶引上げ装置用・半導体製造装置用グラファイト製品、一般耐火物製品、半導体製造装置用セラミック製品の設計・加工技術を持つ。

その技術を活かし、クライアントのニーズに合わせたカスタマイズ品からマーケティング結果に基づく量産品までの装置・ユニット、新型ヒータの開発・販売を行っている。また、完備しているクリーンルーム（クラス1000）で半導体関連だけでなく、医薬品関連の製品製造や製品評価も展開。

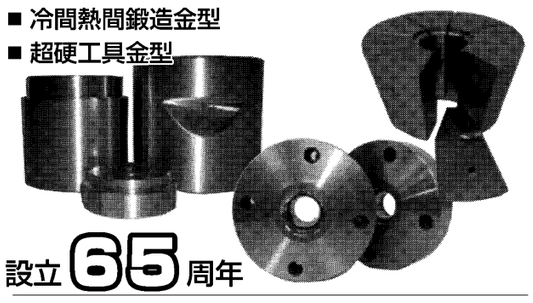
力率「1」の実現とともに高調波とCO2を大幅に低減する電力調整ユニット「ViezA」やウェハの表面内温度均一性・昇降温特性に優れた半導体熱処理炉用ヒータ「XYZ」、高温下で広範囲にワークを加熱できる「MoS-i2電気炉」、高純度N2を最大400度まで加熱できる「HOTN2ヒータ&温度調節コントローラー」等を取り扱っている。

同社の強みは、クライアントごとの個別ニーズに対し、効果のある提案力と製品力だ。

株式会社三幸
http://www.kk-sanko.co.jp

「高品質」と「短納期」「低価格」＋αが強み

■冷間熱間鍛造金型
■超硬工具金型



設立65周年

東宝ダイス製作所は、磨き抜かれた「匠の技術」で、冷間・熱間鍛造用金型ダイス及びパンチ・ピン等の超硬工具類・スチール工具全般の設計・製造販売を行っている。金型は自動車部品、建築部品、電気部品と幅広い分野で用いられており、常時800点以上の金型製作を進めている。

人と機械の調和、安全な生産

同社は高品質・短納期・低価格において全てのニーズに応えることを最優先に、匠の技から生み出される「妥協のない製品」焼嵌め、圧入における「目に見えない品質」に加え、生産管理や品質管理を強化し、競合他社との差別化を図っている。また、CAD／CAMと電極加工のマシニングセンタを連携させることで設計と生産を結ぶシステムの構築や、自動電極交換システムによる放電加工機の無人化など徹底したリードタイムの短縮に取り組み、ハードとソフトの両面を強化することで金型メーカーとしての総合力を発揮。

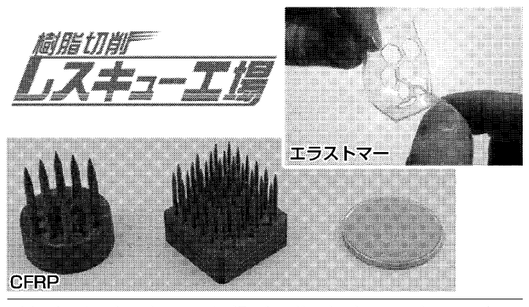
生産状況をリアルタイムに把握し、短納期化を実現

さらには、金型の工程管理システムを導入し、金型生産に欠かせない人間の技術にIoTを取り入れ、工程の進捗をリアルタイムに把握。生産スピードの向上を図り、短納期化のニーズに応えていく。

株式会社東宝ダイス製作所
http://center.e-monkey.jp/toho/

CFRPからエラストマーまで、あらゆる樹脂を切削・加工

樹脂切削 レスキュー工場



サン樹脂は、汎用樹脂からスーパーエンプラまで、変り種ではCFRPやエラストマー等、あらゆる樹脂の加工を手掛けている。3次元（3D）切削加工や高精度加工、大型加工ができる設備を有しており、手加工においては接着や溶接、曲げや透明仕上げなど用途に合わせた最適な加工を提案してくれる。金型不要で小ロット多品種の加工が可能であり「金型をおこす前に形状や性能の確認をしたい」「寸法を確定できないので0・05㎜刻みで寸法を変えて製作したい」「成形だと引けが出たり肉抜きが必要だったりして思うような形に出来ない」といった設計者の要望や悩みに応えている。

CFRPの性能を最大限に引き出す

同社は航空・自動車業界で注目されているCFRPの加工経験が豊富で、ダイヤモンドを使用した特殊な刃物により、層間剥離（デラミネーション）を起こさず、CFRPの性能を損なわない切削を実現。また、刃物の摩耗や粉じんの発生が激しい紙ベーク・布ベーク、ガラスエポキシといった難削材のH7公差の穴加工等、高精度な加工にも対応。逆に柔らかい素材では、エラストマーやゴムにおいても刃物と切削環境を工夫することで硬度30のウレタンゴムの加工まで可能としている。

サン樹脂株式会社
http://sunjushi.co.jp